

全国の先生が全国の生徒にオンラインで個別無料授業

～オンライン寺子屋の発足とその成果～

オンライン寺子屋 代表 中村 柁(教諭), 副代表 斎藤 みずも, 副代表 堀 佳月(教諭)

キーワード: オンライン教育, ICT, 遠隔教育

実践の概要

コロナ禍で有志の現役教員が中心に集まり、オンライン個別授業を行うオンライン寺子屋を発足させた。50人以上の現役教員や社会人が集まり、合計1,000件以上のオンライン授業を行った。多様な生徒が受講できるように無償授業とし、コロナ禍でも教育機会を提供し続けた。

1. 目的

新型コロナウイルスで学校が休校の状態であった2020年5月11日、文部科学省の高谷浩樹 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課長が情報環境整備に関する説明会をYouTubeでLIVE配信した。その中で、「できることから、できる人から」「既存のルールに捉われずに臨機応変に」「やろうとしないということが一番子供に対して罪だ」と述べた。それを受けて「自分たちにできることを、今すぐ、始めよう」と決意し、5月12日から14日のわずか3日間で、SNSで教員に協力を呼びかけ、生徒を募集して、オンライン寺子屋の組織を立ち上げた。5日間で100人以上の生徒から申し込みがあり、2週間で100回以上の授業を行うことができ、発足から1年経ち授業実施数は1,000件を超えた。参加している生徒の80%は学校外のサポートを受けていない生徒である。生徒たちが、質の高い授業を誰にでも、どの場所でも受ける機会を提供したいと考え、無償で始めた。

コロナ禍での団体立ち上げにあたり、運営者や講師は実際に一度も直接会ってはいない。全てオンラインで会議、サービス設計、サービス提供を行い、わずか3日間でオンライン寺子屋を始めることができた。講師登録の方法や、受講希望者に対するメール返信、Zoom等のツールの準備、授業の進め方などの経験交流を、講師が自主的・自発的に行っている。「できるひとが、できるときに、できることを、できる分量だけ実施する」というボランティアの基本を忠実に実行し、しかも大きな成果をあげている。「参加者が、有機的に結びつき、あちこちで予期しない化学反応を起こして、新しい知見を次々に生み出している」と言える。参加者の自由なメッセージが流れる場を共有する一方で、必要事項はSlackを用いて整理し、検索・閲覧ができるようにしている。また、Google Sites、Google フォーム、AirReserve等の既存のツールを組み合わせ、無料でしかも機動力の高いシステムをつくりあげている。

2. 実践の特徴・工夫

特徴1) 完全無料で1対1の学習サポート

授業内容は受講者一人ひとりのニーズにあった授業を行う。学校の宿題、予習、復習、演習など、毎回相談して、内容を決定する。一人一人に合わせた授業内容、ペース、教え方をしているため受講者の満足度も高い(写真1)。



写真1 オンライン寺子屋HPより

特徴2) オンラインで全てが完結

生徒が授業に必要なのはスマホのみである。タブレットやコンピュータがあれば好ましいが、スマホのみでも十分にサポートを受けられるようにツールを厳選している(写真2)。

特徴3) 受講生徒・講師が全国各地から参加

授業をオンラインで実施していたため、授業をする教員と受講する生徒の場所が限定されていない。北海道、関東、近畿、九州、沖縄といった全国各地から生徒が授業を受講した。またアメリカから授業をする教員や、インドから授業を受ける生徒もいた。

特徴4) 大学生オンライン教育実習プログラムも開始

コロナウイルスで教育実習を行うことができない大学生に向けてオンラインで教育実践を積むことができるオンライン教育実習を行った。オンラインでの教え方や、テクノロジー機器の使い方、オンライン模擬授業を行い、現役の教員から授業後にフィードバックをもらえるプログラムを実施し、コロナ禍でも大学生が教育に関わることを提供した。



写真2 オンライン授業の様子

3. 成果

講師、生徒、保護者、大学生という多様な立場の人がオンライン寺子屋に関わり、オンライン寺子屋の経験を通して変容していった。講師や大学生は、自分の出来ることを自発的に行ったり、互いに感謝したり、情報交換会の経験交流を通じて自己有用感を高めた(写真3)。生徒は、オンライン個別授業という利点を活かし、自分のペースや興味に合わせて学習することができた。保護者は、家でも質の高い授業を受けられたことで満足感を得ている。



写真3 大学生の授業実施の様子

2020年の夏には日本デジタル教科書学会第9回年次大会で「オンライン寺子屋」の組織運営についての論文「～発足4日で講師20名と生徒70名が集まり、1週間後には100名の生徒と40回以上の授業を実施した組織でのICTの活用方法について～」を発表した。一度も顔を合わせずに、企画、発足、運営を短期間で成し遂げたオンライン寺子屋の運営方法やマネジメントについて、参加した講師からアンケートを取り、分析した。その結果、スピード感のある組織を立ち上げるという点では、ア) やるべきことを単純明確にする。イ) 顔が見える形で頻りに連絡をとる。ウ) 全体の作業を極力可視化することで、作業の質を担保するとともに、質問・相談しやすくする。エ) 自分の作業が全体に対して貢献しているという実感を持てるようにする。などの方法が有効であることが確認できた。

■講師コメント・大学生コメント

・学校が休校になり学校で授業ができない時にオンライン寺子屋で授業をして、社会に貢献することができたと感じる。また、ICTリテラシーも向上したり、他の教員と交流することができて貴重な場であった。

・無償のボランティアとして参加したつもりが、受講してくれる小学生から元気をもらえたり、「わかった!」と言って喜んでくれる様子を見てやりがいを感じられたりと、教える側も恩恵を受け取っている。

■生徒コメント

・オンライン個別授業は教室授業に比べてわからないところをちゃんと聞けます。教室の授業は、わからないまま1時間が終わってしまったり、周りの目が気になって先生に聞けなかったり、友達に教わってもよくわからなかったりして、勉強について行けなかったです。でも、

オンラインの個別授業はわからないところを周りを気にせずに「わからない!」と聞けるので、わかりやすく確実に、学ぶことができます!

・私の学校は一斉授業のため、みんなと同じペースで授業が進みますが、この個別レッスンだと先生が自分のペースやレベル、興味の分野に合わせて教えてくださって、理解度や定着度がアップしていると感じています! また先生のお話が毎回面白く、私も早く英語を話せるようになって、自分の可能性をもっと広げたいと思うようになり、最近では授業外でも英語に触れるようになりました!

■保護者コメント

・集中力が続かなく、でも注目して欲しい性格の息子が、とても楽しそうに勉強できて「また、先生と勉強する!」と言うくらい大好きになったようでした。低学年の男の子へのアプローチ方法や話し方が素晴らしかったです。一対一で学べるのが息子に合っていて、貴重なコミュニケーションの場になりました。

・勉強嫌いの娘が生き生きと問題に取り組んでいました。早速自分から来週の授業まで申し込んでいました。授業前に見せていただいた、先生が訪れた各国の写真や、先生の取り組みが、とても心に残ったようです。子どもの時に、多様な生き様の大人の人に影響を受けることは、大変意義のあることだと思います。

・本当に善意でやって頂き感謝しております。国語のレッスンってどのようなものなのかと思っておりましたが、現代を生きる力に直結するプレゼン力を鍛えるようなレッスンでした。本当に貴重な体験をさせていただきました。学び方も、ゲーム形式のものを準備して頂き、とても楽しく学んでいます。

4. 今後に向けて

オンライン寺子屋は今後もICTを活用しながら、教育に対する課題を解決できるような取組みをしていく。

2021年の冬には大学生オンライン教育実習プログラムの研修を拡大させ、オンライン模擬授業研修、自己分析、メンタープログラムをスタートした。オンライン授業ノウハウを、現任教員や教員志望の大学生に共有し、実践できる場も提供していきたいと考えている。また、SNSやメディア発信を通して、オンライン授業の知見の共有や、教育課題への問題提起をしていきたい。

今後、オンライン授業マッチングプラットフォーム以外にも、「必要な時に必要なこと」を迅速に対応できるフレキシブルな団体を目指す。学校休校時では、「余力のある教員」と「授業を受けたい生徒」をマッチングさせて教育機会を創出してきた。子どもと関わる機会が減ってしまった大学生には、「オンライン教育実習」という形で機会を提供してきた。社会課題に向けて、改善・解決を図ることで、「すべての子どもに、多様な選択肢」がある社会を実現していきたい。

オンライン寺子屋・中村 柁, 斎藤 みずも, 堀 佳月